

知ってほしい 肝炎

正しい知識の普及で対策を推進

毎年7月28日は世界保健機関(WHO)が定める「世界肝炎デー」。ウイルス性肝炎のまん延防止などを目的に始まった世界的取り組みで、日本でもこの日を「日本肝炎デー」に制定。肝炎への理解を深めるための啓発活動が各地で行われている。宮崎大学医学部附属病院肝疾患センター長の永田賢治氏に、肝炎の現状や宮崎県の取り組みなどをお聞きした。

慢性化しやすいB型、C型肝炎 薬物療法の進歩で患者数減少に

肝炎はウイルスや生活習慣などによって肝臓に炎症が起き、肝細胞が壊れていく病気で、大きくウイルス性肝炎と非ウイルス性肝炎に分けられます。主なウイルス性肝炎にはA、B、C、D、E型と5種類あり、それぞれ感染経路や症状が異なります。慢性化しやすいのはB型肝炎とC型肝炎で、慢性化すると自然治癒することは少なく、抗ウイルス薬による治療が必要になります。C型肝炎に関しては新しい抗ウイルス薬の登場により、かなり高い確率でウイルスの排除が可能になり患者数が減少。以前は慢性B型肝炎やC型肝炎から肝硬変、肝臓がんへと進行していく患者さんが多かったのですが、薬物療法の進歩により現在はかなり減ってきています。

脂肪肝からの肝硬変、肝がん増加 生活習慣を見直しきちんと治療を

非ウイルス性肝炎の代表的疾患が、アルコール性肝炎とアルコール以外のメタボリック症候群に関連した脂肪肝です。後者を以前は非アルコール性脂肪肝と呼んでいましたが、現在は代謝機能障害関連脂肪肝という病名を使っています。肥満や糖尿病、脂質異常症、高血圧などの代謝機能の異常に関連した脂肪肝とい

う意味で、生活習慣と関わりが深いため、食事療法や運動療法が治療の中心となります。ウイルス性肝炎からの肝臓がんが減少しているのに対して、脂肪肝から肝硬変、肝がんへと進行するケースが増えています。

正しい知識の普及と重症化予防などを目的に 「みやざき肝炎デー」や市民公開講座を開催

肝がんの死亡率が高い状況が続く宮崎県では、肝炎の正しい知識の普及と感染予防、重症化予防を目的に、市民公開講座や「みやざき肝炎デー」の開催、肝炎医療コーディネーターの養成などさまざまな取り組みを行っています。昨年の「みやざき肝炎デー2024」は国の「知って、肝炎プロジェクト」と共同で開催。ゲストを招いてのトークショーや肝炎ウイルスの無料検査などを行いました。今年の「みやざき肝炎デー」は9月27日(土)に開催予定です。肝炎について知る良い機会となりますので、ぜひ多くの方に参加していただきたいと思います。

自覚症状に乏しく発見が遅れがちに 定期健診で早期発見・早期治療を

肝臓は「沈黙の臓器」といわれるように炎症が起きても自覚症状が出にくい。そのため、症状が出た時にはすでに進行していることも少なくありません。症状が現れる前に病気を見つけるには、定期的に健康

みやざき肝炎デー2025

開催日時 9月27日(土)
10時~15時

開催場所 イオンモール宮崎2F
イオンホール

開催内容 パネル展示、肝炎無料検査、肝臓病相談、肝硬度検査(無料)など

主催/宮崎県

宮崎大学医学部附属病院
肝疾患センター

診断を受け自分の肝臓の状態を把握すること。健診で異常が見つかればすぐ、精密検査を受けてください。早期診断・早期治療により重症化を予防でき、ひいては肝硬変、肝がんへの進行を抑えることにつながります。(談)

宮崎大学医学部 内科学講座
消化器内科学分野 准教授
宮崎大学医学部附属病院
消化器内科 副科長
肝疾患センター センター長

永田 賢治 氏

